

各関係機関長 様

病虫害防除所長

平成30年産(2018年産)大豆収穫物調査の結果と被害発生要因(技術情報第9号)について(送付)

このことについては、関係農業普及・振興課の担当者の皆様には収穫物の採集につきまして御協力いただき有り難うございました。下記のとおり調査結果を取りまとめましたので、業務の参考としてご活用ください。なお、本調査結果は病虫害防除所のホームページにも掲載しています。

記

1 調査結果の概要

- ・11月に県内7地点から大豆5本を採取し、病虫害による子実の被害を調査した。その結果被害粒率は8.3%で平年(14.2%)および昨年(14.5%)より低かった(図1)。
- ・本年の病虫害による被害粒の中で割合が大きかったのは吸実性カメムシ類、その他病害、その他虫害によるものであり、平年及び前年と同様であった。しかし、いずれの病虫害による被害粒の割合も平年よりやや少～少であった(図2)。

2 病虫害毎の発生状況

病害：紫斑病は主要な感染時期である10月以降の降水量が平年の67.5%(熊本市アメダス地点)と少なかったことから被害粒率0.0%(平年1.4%、昨年0.3%)と少発生であった。また、腐敗粒やカビ粒、べと病等その他病害の被害粒率も1.9%(平年4.6%、昨年9.6%)と低かった。ウイルス病による褐斑粒率も0.1%(平年0.5%、昨年0.1%)と低い水準が維持された。

虫害：予察灯におけるミナミアオカメムシ、アオクサカメムシの誘殺虫は8月以降少発生で推移した。また、巡回調査における吸実性カメムシ類の発生密度は平年並から平年比やや少で、被害粒率は4.6%(平年5.9%、昨年3.5%)と平年比やや少となった。その他虫害ではフタスジヒメハムシの食害痕に雑菌が感染して生じる黒斑粒やマメシクイガ等の幼虫による食害粒が中心であり、被害粒率は2.0%(平年2.9%、昨年3.4%)と平年比やや少であった。

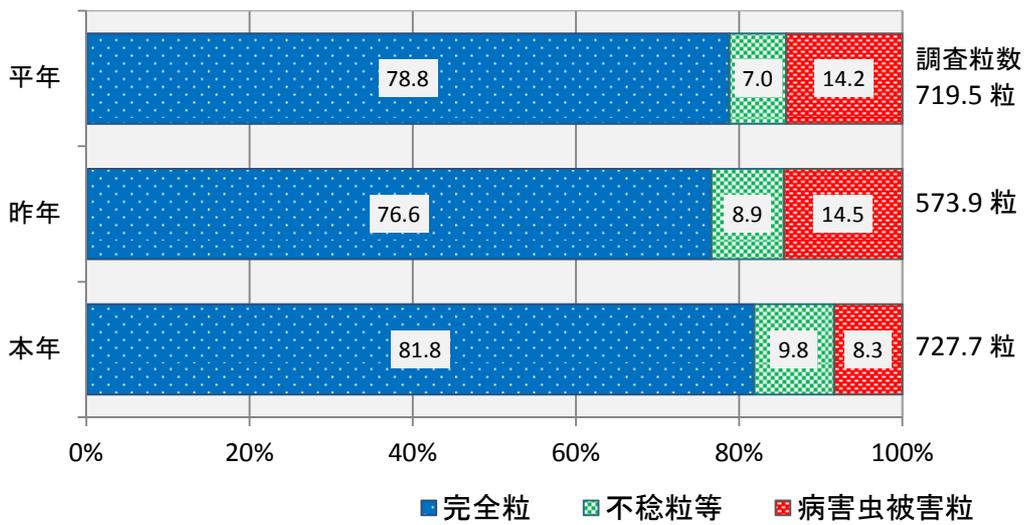


図1 平成30年産大豆収穫物調査粒数のうち病虫害被害粒の割合
 (調査粒数は、採取した大豆5本分の平均値)
 (図中の数値は調査粒数に対する割合)

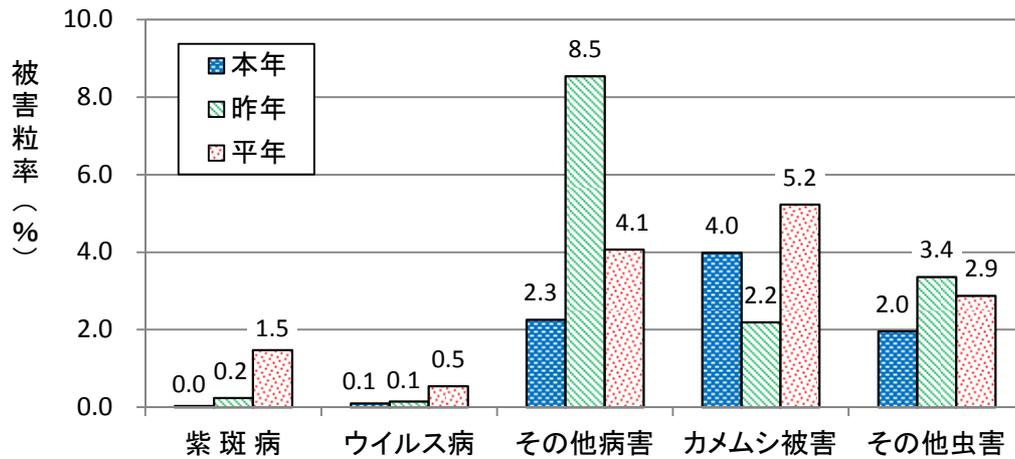


図2 平成30年産大豆収穫物調査における病虫害被害の内訳
 (図中の数値は調査粒数に対する割合)

問合わせ先

病虫害防除所 (生産環境研究所)

担当：清永

TEL: 096-248-6490

e-mail: kiyonaga-t@pref.kumamoto.lg.jp